

# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き | 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)安城市大東町商業施設設計画(商業施設棟)	階数	地下0階、地上4階
建設地	愛知県安城市大東町1058-2の一部	構造	S造
用途地域	工業地域・近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	3,000 人
気候区分	6地域	年間使用時間	5,475 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年3月 予定	評価の実施日	2023年9月20日
敷地面積	66,214 m <sup>2</sup>	作成者	菅野 友弥
建築面積	34,679 m <sup>2</sup>	確認日	2023年9月20日
延床面積	100,370 m <sup>2</sup>	確認者	平野 譲



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.5** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値	184 (kg-CO <sub>2</sub> /年・m <sup>2</sup> )	100%
②建築物の取組み	138	88%
③上記+②以外の	46	88%
④上記+	92	88%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** **Qのスコア = 3.6**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.6

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 4.2

**LR 環境負荷低減性** **LRのスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.8

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.8

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目					
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p><b>3.4</b></p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p><b>4.0</b></p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>12.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	12.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	12.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p><b>3.7</b></p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 (仮称)安城市大東町商業施設計画(商業施設棟)

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル:  
 ■評価ソフト:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄						全体
配慮項目	独自基準	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
	重点項目								建物全体・共用部分	建物全体・共用部分
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.6</b>	
<b>Q1 室内環境</b>									<b>3.3</b>	
<b>1 音環境</b>									<b>1.8</b>	
1.1 室内騒音レベル									0.1	
1.2 遮音									1.8	
1 開口部遮音性能									3.0	
2 界壁遮音性能									3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									1.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									1.0	
1.3 吸音									1.0	
<b>2 温熱環境</b>									<b>2.7</b>	
2.1 室温制御									0.5	
1 室温									3.6	
2 外皮性能									3.0	
3 ゾーン別制御性									3.0	
2.2 湿度制御									5.0	
2.3 空調方式									3.0	
2.4 冷暖の選択が自由な空調システム									0.33	
<b>3 光・視環境</b>									<b>4.0</b>	
3.1 昼光利用									0.2	
1 昼光率									4.0	
2 方位別開口									0.25	
3 昼光利用設備									0.5	
3.2 グレア対策									3.0	
1 昼光制御									3.0	
3.3 照度									5.0	
3.4 照明制御									3.0	
センサーやタイマーによる自動照明制御									5.0	
<b>4 空気環境</b>									<b>4.3</b>	
4.1 発生源対策									0.2	
1 化学汚染物質									4.3	
F☆☆☆☆及び規制対象外建材を採用									0.5	
4.2 換気									4.0	
1 換気量									3.0	
2 自然換気性能									4.0	
3 取り入れ外気への配慮									0.3	
換気量は30m <sup>3</sup> /h以上									4.5	
汚染源のない方位かつ排気口と離隔									3.0	
4.3 運用管理									5.0	
1 CO <sub>2</sub> の監視									0.2	
2 喫煙の制御									5.0	
管理マニュアルの整備かつ常時監視									3.0	
喫煙室を設け、適切な換気設備を計画									5.0	
<b>Q2 サービス性能</b>									<b>3.6</b>	
<b>1 機能性</b>									<b>3.8</b>	
1.1 機能性・使いやすさ									0.4	
1 広さ・収納性									3.8	
2 高度情報通信設備対応									0.4	
3 バリアフリー計画									3.0	
1.2 心理性・快適性									3.0	
1 広さ感・景観 (天井高)									1.0	
2 リフレッシュスペース									0.3	
3 内装計画									4.6	
売場の天井高:3.3m以上									0.33	
売り場面積の4%以上のレストスペースを確保									3.0	
コンセプトに基づく内装計画									5.0	
1.3 維持管理									0.3	
1 維持管理に配慮した設計									4.0	
2 維持管理用機能の確保									0.3	
防汚性のある内装材の採用、段差のない設計等									3.0	
トイレ毎にSKの設置、共用部に清掃用電源の設置等									4.0	
<b>2 耐用性・信頼性</b>									<b>3.3</b>	
2.1 耐震・免震・制震・制振									0.3	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)									3.3	
2 免震・制震・制振性能									0.4	
2.2 部品・部材の耐用年数									3.0	
1 躯体材料の耐用年数									3.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									0.3	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									3.1	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									0.33	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									0.23	
6 主要設備機器の更新必要間隔									0.23	
ビニル床タイルや複層仕上げ材等の耐用年数の長い材料の採用									2.0	
屋外露出・厨房排気ダクトにガルバリウムを使用									5.0	
2種類以上にB以上を使用し、Eは不使用									0.09	
2.4 信頼性									4.0	
1 空調・換気設備									0.1	
2 給排水・衛生設備									4.6	
3 電気設備									0.19	
4 機械・配管支持方法									3.0	
5 通信・情報設備									5.0	
重要室の非常時空調運転の採用等									0.20	
汚水の一時貯留、井水の利用等									3.0	
非常用発電機及び無停電電源設備の設置等									5.0	
耐震クラス:Aクラス									0.20	
通信手段の多様化等									3.0	

<b>3 対応性・更新性</b>				0.2	3.6	0.29	-	-	-	3.6
<b>3.1 空間のゆとり</b>		②	階高:3.9m以上 壁長さ比率<0.1	0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1	階高のゆとり			-	5.0	0.60	-	-	-	
2	空間の形状・自由さ			3.0	5.0	0.40	-	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>				3.0	3.0	0.31	-	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>				0.3	3.0	0.38	-	-	-	
1	空調配管の更新性			-	3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0	3.0	0.17	-	-	-			
3	電気配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-			
4	通信配線の更新性	3.0	3.0	0.11	-	-	-			
5	設備機器の更新性	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				-	-	0.30	-	-	-	4.2
1	生物環境の保全と創出	独自③	自生種の採用や自然に親しめる環境の整備等	-	4.0	0.30	-	-	-	4.0
2	まちなみ・景観への配慮	独自④	周辺まちなみとの調和や既存の自然環境を保存等	-	5.0	0.40	-	-	-	5.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	3.5	0.30	-	-	-	3.5
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	独自④	中間領域の計画、防犯カメラの設置等	-	5.0	0.50	-	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			-	2.0	0.50	-	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										3.3
<b>LR1 エネルギー</b>						0.40	-	-	-	2.8
1	建物外皮の熱負荷抑制		BPI=1	3.0	2.0	0.30	-	-	-	2.0
2	自然エネルギー利用			3.0	3.0	0.20	-	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		BEI=0.88	3.0	2.6	0.30	-	-	-	2.6
4	効率的運用			0.2	4.5	0.20	-	-	-	4.5
集合住宅以外の評価				1.0	4.5	1.00	-	-	-	
4.1	モニタリング		用途別エネルギー消費及びシステム効率の把握・検証	3.0	5.0	0.50	-	-	-	
4.2	運用管理体制		エネルギー消費量の目標値を計画	3.0	4.0	0.50	-	-	-	
集合住宅の評価				-	-	-	-	-	-	
4.1	モニタリング			-	-	-	-	-	-	
4.2	運用管理体制			-	-	-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						0.30	-	-	-	3.8
<b>1 水資源保護</b>				0.1	4.2	0.15	-	-	-	4.2
1.1	節水		衛生器具の過半に節水器具を採用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			0.6	4.3	0.60	-	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		井水利用率は20%以上	3.0	5.0	0.67	-	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	3.0	0.33	-	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	4.0	0.63	-	-	-	4.0
2.1	材料使用量の削減	② 独自	高強度の鉄骨及びBCR鋼材の採用等	-	4.0	0.07	-	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		-	3.0	0.25	-	-	-		
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.21	-	-	-		
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		-	3.0	0.21	-	-	-		
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	3.0	-	-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		独自	躯体と内装材は分離可能、かつOAフロアを採用	3.0	5.0	0.25	-	-	-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.3	0.22	-	-	-	3.3
3.1	有害物質を含まない材料の使用			3.0	3.0	0.32	-	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>				0.6	3.5	0.68	-	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		ODP値=0、GWP値=50未満の断熱材を採用	-	4.0	0.50	-	-	-	
3	冷媒			3.0	3.0	0.50	-	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>						0.30	-	-	-	3.2
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		①	ライフサイクルCO2排出率88%	-	3.4	0.33	-	-	-	3.4
<b>2 地域環境への配慮</b>				0.3	3.1	0.33	-	-	-	3.1
<b>2.1 大気汚染防止</b>				-	3.0	0.25	-	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>				-	3.0	0.50	-	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>				0.2	3.7	0.25	-	-	-	
1	雨水排水負荷低減	独自		-	3.0	0.25	-	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			-	3.0	0.25	-	-	-	
3	交通負荷抑制	独自	荷捌き用車両スペースを確保	-	5.0	0.25	-	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		ゴミの種類や量の推計、分別容器の設置等	-	4.0	0.25	-	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.3	3.2	0.33	-	-	-	3.2
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	騒音	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
2	振動	独自		-	3.0	0.50	-	-	-	
3	悪臭			-	-	-	-	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>				0.4	3.0	0.40	-	-	-	
1	風害の抑制			-	3.0	0.70	-	-	-	
2	砂塵の抑制			-	-	-	-	-	-	
3	日照障害の抑制			-	3.0	0.30	-	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>				0.2	4.4	0.20	-	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		屋外照明・広告物照明はチェックリストの過半を満足	-	5.0	0.70	-	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			-	3.0	0.30	-	-	-	



**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

(仮称)安城市大東町商業施設計画(商業施設棟)

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>3.4</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>3.7</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.3	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.6	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.0	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>4.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09
			外構緑化:12%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>		(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア=重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)安城市大東町商業施設計画(商業施設棟)

計画上の配慮事項	
総合	愛知県安城市に計画された物販店舗である。広大な敷地内には緑地を積極的に設け、自然環境の保全や創出に配慮した計画としている。
Q1 室内環境	・全面的にF☆☆☆☆の建材を採用し、室内空気質の健全化に配慮する。
Q2 サービス性能	・耐用年数の長い配管材料を採用し、配管材の長寿命化に配慮する。 ・十分な階高を確保し、空間の対応性・更新性に配慮する。
Q3 室外環境(敷地内)	・自生種の採用や既存樹木の保存により、自然環境の保全や創出に配慮する。
LR1 エネルギー	・LED照明の採用等により、エネルギー使用量削減に配慮する。
LR2 資源・マテリアル	・節水効果のある水栓等を採用し、水資源保護に配慮する。 ・リサイクル材を採用し、非再生資源の使用量削減に配慮する。
LR3 敷地外環境	・屋外照明・広告物照明は「光害対策ガイドライン」の過半を満たし公害対策に配慮する。
その他	